

第7回とやま未来創造県民会議における主な意見 (令和元年7月26日開催)

◆全般に関すること

- 次期戦略策定にあたっては富山県の特徴、魅力をふまえた特色を打ち出すことが重要である。

◆SDGsの推進に関すること

- 17ゴールのうち、ゴール5「ジェンダー平等の実現」は、日本は最低レベル。子育てのしやすさ、人口増にもつながるものであり、県をあげてこれを推進して欲しい。
- 豊富な水資源を背景にした低廉な電力コストが富山の豊かさに寄与してきた。SDGs未来都市のキャッチフレーズが、「エネルギーコストが高くても良い」との誤解に結びつかないように進めてもらいたい。
- SDGs未来都市への選定は喜ばしいが、関係団体等とも連携し、最終的には貧困、健康福祉、教育、ジェンダーなどの取組みを通じ、富山で暮らす人が自己肯定感をもちながら暮らせる環境づくりにつなげることが重要である。
- SDGsを原動力として地方創生を推進することが非常に重要。新たに設置する連絡協議会がしっかり機能するよう運営して欲しい。また、企業の経済活動について、SDGsの観点から定量的な指標を導入できると良いのではないかな。

【基本目標1】結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備

- 未婚者の結婚促進を推進すべき。
- 2030年の合計特殊出生率の目標(1.9)を打ち出しすぎると、プレッシャーを感じる女性もいるのではないかな。

【基本目標2】産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進

- 第1期「とやま未来創生戦略」では小規模企業の振興が掲げられていたが、一人当たりGRPを大都市圏並み(一人あたり700万円)に高めるには、現在の産業構造では限界がある。北陸エリアだけでなく、他地域の経済圏も巻き込んだ形で連携をしていく必要がある。

- 多くの目標を設定するよりも、幸福度など1つ重要な目標を設定することも重要ではないか。また、産業関係では医薬品、アルミなどのほか、データサイエンス、IoT等の新しい分野について、企業とも連携して実証実験を行って欲しい。県内大学を卒業した学生が富山県で就職できるシステム作りに取り組んで欲しい。
- 住まい、雇用だけでなく、景観保全が重要。有名観光地以外の、何気ない日常風景を守る取組を推進すべき。
- 自分のキャリアを活かす職場があれば女性も帰ってくるが、富山には役員が女性の企業が少なく、キャリアアップの仕組みが足りない。まずは男性の意識を変えることが必要である。

【基本目標3】女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上

- 外国人の受け入れ体制、教育体制の整備が重要である。
- 女性も高齢者も、地域の皆が協力し、一人一人が安心して暮らせる地域づくりを進めることが重要である。また、ひきこもりの方など、潜在的な労働力の活躍環境の整備についても取り組んでもらいたい。
- 北陸の有効求人倍率は1.9程度で推移しており、今後さらに人手不足傾向は強くなる。「人手不足対策」を明確に意識し、企業の努力を後押しできる取組が重要である。

【基本目標4】活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくり

- 空港からまちなかへ移動する際、相乗りタクシーなど、廉価で利便性の高い環境整備が必要である。
- 北陸新幹線の敦賀延伸は観光、交通事業者にも大きな影響を及ぼすものであり、新幹線検討委員会の設置は意義がある。また、富山だけでなく北陸3県の広域連携の視点を取り入れ、特色に応じた役割分担をし、観光以外の分野においても情報発信、北陸ブランドづくりを進めていきたい。